

観光は平和でこそ／未来に大切なものは

# 基地自らの問題に

全国的に関心を集める米軍普天間飛行場を抱える宜野湾市で開かれた18日のシンポジウム。「辺野古の新基地問題は沖縄の尊厳が試されている」「米軍基地がなくても、沖縄経済が成り立つことは実証済みだ」とのパネリストらの指摘に、会場に詰め掛けた約750人の市民らはうなずき拍手を送った。

(1面参照)



パネリストらの報告に聞き入る来場者  
＝18日午後、宜野湾市民会館

## 宜野湾でシンポ 750人が共感

那覇市から訪れた井口英子さん(60)は、古賀茂明氏の基調講演を受けて「安倍(晋三)首相は独裁的だと聞くが、講演では帝国主義という時代錯誤的な発想で生きていると言われ、危機感を持った」と指摘。「沖縄の観光産業は平和の下でしか生きていけない。基地の撤去に向けて多くの県民が考えていくべきだ」と強調した。普天間飛行場のオスプレイが、日常的に頭上を飛んでいるという中城村の比嘉俊雄さん(75)は「真剣に米軍基地と県経済の関係について考えるいい機会になった。これからは個人の問題として、それぞれが考えていくことが重要だと感じた」と話した。

西原町の伊禮聡さん(53)は「古賀さんが安倍政権の思惑などをストレートに語るところが痛快だった。これからの沖縄の未来にとって本当に大切なものは何なのか、みんなで議論が必要だ」と語った。

'15/12/19 沖縄タイムス 30面

